

# 稲作情報



NO. 7

越後さんとう農業協同組合  
電話番号(0258)41-2887

平成30年 6月21日

水稲の生育は、“平年並み”となっています！

## 6月末頃より早生品種の穂肥時期を迎えます！

速報!

コシヒカリ生育状況(6月20日調査:生育調査地点平均値)

6月中旬の気象が低温傾向となったことから、生育はやや停滞したものの、本年の幼穂形成期及び出穂期は“平年並み”と予想されます。

- ・草丈：指標値比100%「並み」
- ・茎数：指標値比100%「並み」
- ・葉数：指標値差-0.5葉「やや少ない」
- ・葉色：指標値差+0.4「並み」

ワキの有無や移植時期の早晚により、地区・ほ場ごとの生育差が大きくなっています。ほ場ごとに“生育診断”を実施しましょう。

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	37.9	396	8.0	40.4
和島	5/5	38.7	429	8.2	40.8
出雲崎	5/5	37.0	325	8.5	39.1
与板	5/11	37.3	458	8.3	39.5
三島	5/9	35.0	392	7.3	38.1
こしじ	5/13	36.8	398	8.1	38.3
平均	5/8	37.2	398	8.0	39.4
指標値	5/10	37.0	400	8.5	39.0

### 1. 出穂期及び穂肥時期(予想)

速報値です！今後の天候により左右されますので、今後の天候～生育状況に注意してください。

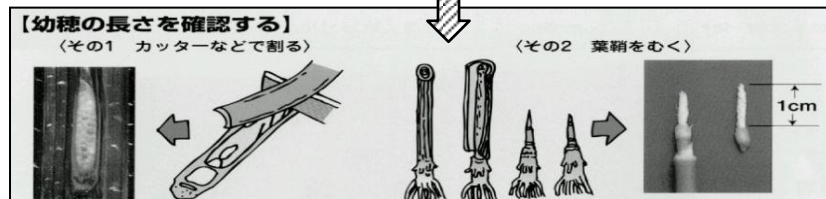
#### (1) 幼穂形成期及び出穂期予想と穂肥時期・施肥量の目安 (平成30年6月20日現在)

品種名	幼穂形成期	出穂期	10a窒素成分 (2回の合計)	施用時期の目安 ( ) は出穂前日数	
				1回目	2回目
ゆきん子舞	6月29日	7月23日	5~6kg	6/28~30 (25~23)	7/10 (14)
こしいぶき	6月30日	7月24日	2(低地力)3kg	7/1 (23)	7/10 (14)
ゆきの精	7月2日	7月26日	2~3kg	7/1~6 (25~20)	7/12~16 (14~10)
コシヒカリ	7月10日	8月3日	1~2.5kg	7/16~19 (18~15)	7/24 (10)
新之助	7月19日	8月12日	2kg	7/22~25 (21~18)	7/31~8/2 (12~10)
あきだわら	7月20日	8月13日	5~6kg	7/19~21 (25~23)	7/30 (14)
ゆきみのり	6月28日	7月22日	5~6kg	6/29~7/1 (23~21)	7/8 (14)
わたぼうし	6月29日	7月23日	2~3kg	7/1~3 (22~20)	7/11~13 (12~10)
こがねもち	7月5日	7月29日	1~3kg	7/11~14 (18~15)	7/19 (10)
五百万石	6月27日	7月21日	1~2kg	7/1 (20)	7/9 (12)
たかね錦	6月30日	7月25日	1~2kg	7/5 (20)	7/13 (12)
越淡麗	7月17日	8月10日	2kg	7/23 (18)	7/31 (10)

※ 適用移植期は、稚苗で5月5日~10日です。ほ場条件や今後の天候等により前後しますので、必ず幼穂確認を行い、ほ場ごとに穂肥時期を判断して下さい。

#### (2) 幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5~1.0
12	4.0~6.0



※ ほ場内の平均的な生育の稲数本から総合的に判断して下さい。

注意!

### 2. 水管理

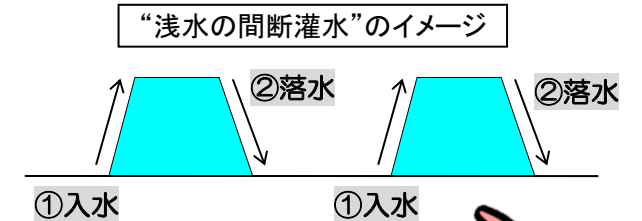
「小ヒビ」→「浅水の間断灌水」→「飽水管理」を徹底!

管内において、茎数過剰・葉色の濃いほ場、中干し不十分なほ場が散見されます。過剰分げつは、登熟がバラつき品質が低下する要因となりますので、該当するほ場では中干しを継続しましょう!

田面に“小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度”になったら中干しを終了し、浅水の間断灌水を実施した後、徐々に飽水管理に移行しましょう。中干しは遅くとも生殖成長への転換期(出穂1ヵ月前)までには、終了しましょう。なお、長期間にわたるタメ水(←根腐れを助長)も厳禁です。



“小ヒビ”の目安



①入水

①入水

ポイント

地耐力に不安があり中干し期間を延長(長く)したい場合は、「浅水の間断灌水(①入水→②落水を繰り返す)」により、大ヒビを入れないようにしましょう!



### 3. 病害虫の発生状況

「斑点米カメムシ」と「葉いもち病」の発生に警戒が必要です!

#### (1) 斑点米カメムシ …本田・農道畦畔における除草の徹底!

5月下旬~6月上旬の高温・多照の気象により、斑点米カメムシ類が活発に活動しているものと推察され、アカスジカスミカメを中心に発生密度の増加が懸念されます。本田内(ヒエ・ホタルイ)・農道畦畔等(イネ科雑草)の雑草管理の徹底により、斑点米カメムシの発生密度を抑制しましょう!

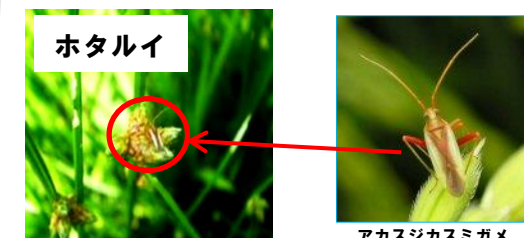
予告!

## 第2回 一斉草刈りウィーク 7月15日(日)~21日(土)

ポイント

農道畦畔の重点対象雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ



※第1回一斉草刈りウィーク後も引き続き雑草種子が結実しない間隔で雑草管理を徹底しましょう!

#### (2) 葉いもち病 …梅雨入り:6月10日 ⇒ ぐずついた天候が続くことにより発生が助長されます。

現在のところ発病は確認されていませんが、6月13日にいもち病好適条件が出現しており、今後の天候次第では多発生が懸念されます。ほ場内をよく観察し、葉いもちの発生が見られた場合は早急に防除を実施して下さい。

資材名	10a使用量	対象病害等	備考
カスミン液剤	100ℓ	いもち病:1000倍	治療(緊急防除)【穂揃い期まで】

※ いもち病の“発生しやすい品種(わたぼうし、新之助等)”では特に注意して下さい。

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報:7月初旬頃「生育状況、穂肥対応、病害虫対策」(予定)

まもなく早生品種の穂肥時期になります。遅れずに穂肥を施用しましょう!

